HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	初対面時の会話終結部における現代日本語交感発話の考察
Author(s)	肖, 潔; Xiao, Jie
Citation	研究論集, 21, 35（左）-53（左）
Issue Date	2022-01-31
DOI	https://doi.org/10.14943/rjgshhs.21.l35
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/84008
Type	departmental bulletin paper
File Information	05_rjgshhs_21_p035-053_l.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

10.14943/rjgshhs.21.I 35

初対面時の会話終結部における現代日本語交感発話の考察*

肖　　潔

要　旨

交感発話は，会話の場の雰囲気を和らげる機能を持っているため，主に会話の開始部に存在すると認識されてきた。しかし，交感発話は会話の開始部だけではなく，会話の中心部や終結部にもさまざまな形で存在している。本論は，これまでの研究の続きであり，初対面時の会話の終結部にある交感発話の特徴を考察することを目的とする。

これまでの研究では，交感発話を〈社交性〉，〈目的性〉，〈情報性〉，〈共感性〉という4つの特徴を持って異なるレベルの交感発話を分析した。本研究では，前景と背景の概念を用いて，交感発話の分析を行った。その結果，交感発話には，情報が省略され，交感機能を前景化した典型的な交感発話，そして，ほかの機能（他動的機能など）を明示的に持っているが，交感機能も後景として存在している準交感発話，さらに，本来の意味が漂白され，交感発話として働く疑似交感発話がそれぞれあることが明らかになった。加えて，〈意識的続行性接触〉・〈無意識的接触性接触〉・〈続行失敗性接触〉・〈一回性接触〉という人間の接触パターンを分類したうえで，それぞれのパターンにおける初対面の会話終結部に異なる姿がとらえられた。その結果，終結部の交感発話は，会話を円満に終了させ，今後の交友関係や次回の会話を円滑に行うための土台作りというメタレベルの機能を持つことが明らかになった。一方，喧嘩別れで続行性接触が失敗となった場合，話者の不満から会話の終結部は円満に終了せず，今後の関係構築に有益な交感発話を用いないこともみられた。

キーワード：交感的力，前景，背景，意識的続行性接触，無意識的接触性接触

---

* 本稿は，日本語学会2021年度春季大会（オンライン）におけるポスター発表「初対面時の会話終結部にある日本語交感発話の特徴に関する考察」（2021年5月14日）の内容に加筆・修正したものである。

1　はじめに

交感発話は，交感的機能を持つ表現である。「交感機能は，情報内容の伝達よりも，安定的にやりとりできる状況を作ったり保持したりすることに重点のある言語行動が持っている作用を指す。交感機能が強い典型的な例はあいさつである」（加藤 2004：112）。これまで，交感発話といえば，会話の場を和らげる機能を持ち，主に会話の本題に入る前（会話の開始部）に存在するという認識にとどまっている。実際，交感発話は会話の開始部だけではなく，会話の中心部や終結部にもさまざまな形で存在している。よって，本稿は，初対面時の会話終結部にある交感発話の特徴を明らかにすることを目的とする。

2　先行研究

まず，交感発話はどのように認定すればよいか，そして，会話の終結部はどのように理解すればよいのかということについて，先行研究での記述を確認していく。

2.1　交感発話の特徴

これまでの研究においてもふれたように，交感発話は‘phatic communion’（Malinowski, 1923）に由来するものである。その後，ファースはこのような言語現象を一種の‘choric’「合唱的」（Firth, 1935：30）用法として解釈している。「合唱的」は，Du Bois（2014）の‘resonance’「共鳴」に相当するものであるが，話し手と聞き手の発話が命題内容の重なりによって共感を形成するものを指している。肖（2019：243）はこのような言語現象をさらに具体化して，次のように〈狭義的な交感発話〉・〈広義的な交感発話〉と二種類に分け，それぞれ三つの特徴にまとめている。

（1）Ⅰ　社交性がある・情報性が低い・目的性が弱い表現（狭義的な交感発話）
　　Ⅱ　社交性がある・情報性が低い・目的性が強い表現（広義的な交感発話）

肖（2019：237-243）によると，この三つの特徴を次のようにまとめて説明することができる。「社交性がある」とは，安定的な人間関係の形成や維持に貢献することである。「情報性が低い」とは，情報内容の伝達に重点を置かないことである。これは，グライスが提唱した会話の効率性と異なり，配慮表現の特徴として扱う。そして，「目的性が弱い」とは，ゴシップのように，「自由」（free）（Malinowski, 1923：149）で「目的なし」（aimless）（ibid.）に些末な話をすることである。そのうちの「目的性」は，J.R.サールの言語行為論における「発話内の目標（発話内目的）」（illocutionary point）（Searle, 1969）とも関連付けられる。交感発話は，当たり障りのない話を意図せずにすることによって対人距離を縮めるため，伝達行為につながる発話目的が弱いと

表１　交感発話の枠組み

特徴／種類	社交性	情報性	目的性	共感性	性質	例示
典型的交感発話	有	低	弱	強	双方向的	慣習的なあいさつ言葉
疑似交感発話（タイプA）	有	低～高	弱～強	強	双方向的	雑談（A は命題内容上共通性があるもの，B は共通性がないが，共感性があるもの）
疑似交感発話（タイプB）					疑似双方向的	
準交感発話	有	低	強	×（＊）	一方向的	感謝・謝罪・祝福など発話内の目的を持つような表現

（＊）：人間関係に貢献するが，命題内容上の共通性があるかつ双方向的に共鳴を引き起こすような共感性には当てはまらない。

見なす。

また，肖（2021）では，上記の分類をもとに，交感発話の特徴をさらに具体化してから枠組みを定めた。肖（2021）では，「共感性」という要素を考慮に入れ，「双方向的」「疑似双方向的」と「一方向的」の特徴から交感発話の分類を再検討した。紙幅の制約上，分析例を取り上げたうえで，分類案を上記表１のように示すことにとどまる。

（１）―おはようございます。
　　―おはよう（ございます）。　「双方向的」

（２）A：今日は雨が降りそうだね。
　　B：本当，雨が降るらしいね。　「双方向的」

（３）A：今日のメイク，すてきですね。
　　B：（笑）本当ですか？！ありがとうございます。　「疑似双方向的」

（４）ありがとうございます。［感謝］
　　ごめんなさい。［謝罪］　「一方向的」

典型的交感発話は，社交の場に用いられる決まり文句で，発話の情報内容が少ない，そして，発話の行為目的が弱く，強い共感度が表明される表現である。疑似交感発話は二種類のタイプがあり，典型的交感発話のように定型性の高い表現は用いられないが，話者と聴者がともに深刻な話題を避け，距離を縮めるような共感的機能を持つ表現である。タイプ A は命題内容上共通性のある言葉で交わされるが，タイプ B は直接的表現や近接化的表現を用いて共感を形成す

るものである。最後に，準交感発話は，典型的交感発話と疑似交感発話のように，強い交感機能は持たないが，人間関係の構築と維持にも貢献している表現である。

2.2　会話の終結部

会話の終結部はどのように理解すればよいか。山田（1999：20-21）では，以下のように述べている。

会話の開始と同じように，会話の終結も隣接対（隣接ペア）(Schegloff and Sacks, 1973)（この場合は，「さよなら／さよなら」などの対タイプ）によって遂行される。（中略）終結部とは，最終的に終結の隣接対を作り出す準備を事前に行うための会話シークエンスである。（中略）終結部は，最終的な隣接対の交換を成功に導くために，これからお互いに新しいトピックの導入は避け，会話の停止を確実にするためのプロセスである。

本稿では，上記の先行研究をもとにして，３節で現代日本語の交感発話を分析し，４節で会話の終結部における交感発話を考察していく。

3　現代日本語の交感発話について

肖（2021）は，〈狭義的交感発話〉・〈広義的交感発話〉（肖 2019）の分類を踏まえたうえで，〈双方向的〉〈一方向的〉〈疑似双方向的〉という交感発話の性質を見極めて，さらに〈典型的交感発話〉〈準交感発話〉〈疑似交感発話〉という枠組みを定めた。しかし，表１で示した枠組みはまだ以下のような問題点が存する。

第一に，社交性，情報性，目的性，共感性のそれぞれの意味が定義しにくいことである。情報性を取り上げてみると，情報性が低い表現には，意味の漂白が起こっているもの，もしくは文字通りの意味がすっかり消えているものがあるはずである。疑似交感発話の情報性は低いところから高いところまで含まれるものという扱いであるが，それぞれを定める基準が不明確である。

第二に，情報性，目的性，共感性の強弱によって交感発話を分類する際，すべてのパターンを考慮するのは困難であるということだ。疑似交感発話の情報性，目的性の「低～高」「弱～強」という表示は，もしそれぞれが「低」「弱」の場合になると，典型的交感発話と区別できなくなる。このいくつかの特徴と分類の枠組みの概念，定義の中身が読み手にはっきりと伝わらない。さらに，「疑似」と「準」の違いは分かりにくい。発話内力の有無や，一方向的な会話であるかどうかを準交感発話の判断基準としているが，疑似交感発話の中にも発話内力を持つ準交感発話を含めている場合がある（（３）を参照）。疑似交感発話の範囲は準交感発話より大きいだろうか。

本節では，上記のような問題点を鑑みて，交感発話の分類レベルを下記のように再分析する。

まず，交感機能という認識をおさえることである。交感機能を持つものは交感発話である。次に，交感機能は強いものと弱いものがあるが，その強さの判定が問題である。「こんにちは」の場合は，今日（こんにち）はご機嫌いかがですか」「今日はよいお天気ですね」などの表現の後半が略された言葉としている。なぜ当該発話は表現の後半部分を略したかというと，言葉本来の意味がすでに漂白され，人と人が会うたびに交感的な交流のために用いられる言葉になってしまったからと考えられる。要するに，言葉が定型化することによって，省略された形が慣習化したという現象である。「こんにちは（ご機嫌いかがですか）」と聞く時は，話し手は聞き手の体調の具合を知りたいというよりも，相手の存在を認識したうえでの社交辞令である。よって，言葉の経済性から考えて，「こんにちは」のように略したと考えられる。その後，「こんにちは」は人と会うたびに用いられるあいさつ言葉となった。言い換えれば，なぜあいさつが必要であるのかというと，人間の交流は情報伝達の交流以外に，交感的（霊的・精神的）な交流も必要だからである。

すなわち，情報伝達を目的としている発話と交感的交流を目的としている発話がそれぞれ存在するという理解でよいだろう。交感的交流は，言語の六要素でいうと，‘CONTACT’〈接触〉に焦点を当てるものである（Jakobson, 1960）。コンタクト〈接触〉とは，話し手と聞き手の交流にあたる物理的･心理的なつながりのものである。接触がなければ，話し手と聞き手の間にメッセージは伝わらない，そしてコミュニケーションも行えないのである。なお，接触に焦点を当てることで特徴づけられる機能は〈交感的機能〉である。「言葉において，いくつかの機能を同時に持つことがある」（Jakobson, 1960）とすると，交感機能は主要な機能として働く言葉が存在するほかに，交感機能とほかの機能が並列に存在する言葉もあると考えられる。

本節では，交感機能の働き方をとらえるために，前景と背景という概念を導入して分析を行う。以下は，主にカルペパー＆ホー（カルペパー＆ホー，加藤訳 2020：58–59）の説明を総括したうえで引用する。「1930 年代から 1940 年代のゲシュタルト心理学で主に用いられる，視覚的認識における図（figure）と地（ground）の問題がある。図の知覚は地の知覚に影響され，地の知覚は図の知覚に影響されるように，図と地は逆転してまた新たな解釈が引き出されるものである。以下，図 1 で示されたように，花瓶が 1 つあるとみる解釈もできるが，２人の横顔とみる解釈もできる」（Culpeper & Haugh，加藤訳 2020：58。筆者による改訂がある）。これは，前景化された要素と背景化された要素がそれぞれあり，お互いに置換することもできるということである。

上記の〈図と地〉の概念を援用して言葉における交感機能を説明することもできる。発話には，情報伝達の機能と交感機能がともに存在することがある。交感的交流を第一目的としている発話は，交感的交流に焦点を当てたもので，交感機能がこの絵にみられる花瓶であるように，前景化したものである。（５）は情報が省略されたもので，事態を叙述するというより，交感的交流に焦点を当てたものであるため，交感機能が前景化したものである。

図 1　ルビンの壺（John smithson 2007，Wikipedia）

（5）人に出会った時

—— おはよう（ございます）。

—— こんにちは。

—— こんばんは。

一方，交感機能を背景化するものは，情報伝達を目的としているか，交感的交流以外の要素に焦点を当てられるものである。そのため，むろん情報伝達の機能（事物・対象を叙述する機能）が前景化するが，その背後に交感機能が多少存在する（完全に交感機能がなく，情報伝達を中心にする発話もあるが，ここでは交感発話を論じているため，交感機能を背景化（後景化）したものに注目する）。下記（6）～（13）の例を挙げる。

（6）健康や気分の伺い

—— お元気ですか。

—— お元気そうですね。

（7）知人に路上で出会った時

—— お出かけですか。

（8）天候や気候の話

—— いいお天気ですね。

—— 寒くなりましたね。

（9）対外的評価

―― ご活躍のようですね。

―― 息子さん，大きくなりましたね。

(10) 感謝の表示

―― ありがとうございます（ました）。

(11) 謝罪の表示

―― すみませんでした。

―― 申し訳ございません（でした）。

(12) 慰労の表明

―― お疲れ様です（でした）。

―― ご苦労様です（でした）。

(13) 祝福の表示

―― おめでとうございます。

上記（6）～(13) の例では，情報伝達や情報を求めることを目的としているもの（（6）～（9））があるほかに，相手に対して働きかける力を持つものもある（(10)～(13)）。（6）は相手の健康に関して尋ねることによって，相手と交感的交流ができている。（7）は，〈今・ここ〉にある相手の状態や出来事を尋ねる表現である。それによって，相手との関係を維持するため，交感的交流が成り立つとみられる。（8）は天気・気候の記述であるが，深刻な話題ではないため，相手との交流の話題として扱われる。その交流によって，相手との距離が縮まり，雰囲気が和やかになる。（9）は相手や相手の家族の〈いま・ここ〉にある出来事や状態に関するポジティブ的な評価である。(10)～(13) は，言語行為上，相手に対して話し手の感情を表現し，相手に働きかける力を持っているが，人間関係の維持や構築に貢献しているものである（肖 2021：69–70）。これらの表現はいずれも交感機能が背後に働いているものである。

このうち，（6）～（7）では，本来の発話の意味が薄れていると考えられる。

（6）―お元気ですか。（再掲）

―はい，おかげさまで（元気です），～～さんは？

（7）―お出かけですか。（再掲）

―ええ，ちょっとそこまで。

（6）では，たとえ聞き手の機嫌がよくなくても，「いいえ，最近は体調がちょっと悪いです」のように正直に答える人は少ないだろう。多くの人はそれを「こんにちは」に相当する表現とみなし，「はい，おかげさまで元気です」と返答する傾向がある。（7）は，「お出かけですか」と聞かれる時，「ええ，～～に行きます」と具体的に返答するより，「ええ，ちょっとそこまで」

という大まかな返答が多いとみられる。そして，話し手（もしくは，聞き手）も本来本気に相手の行く場所を知りたいというより，路上でたまたま知り合いに出会った後の一種のあいさつ行為であるという理解でよいであろう。これを踏まえると，情報性を持つ発話のうちの一部は，記述されている情報の意味が漂白され，一種の交感的交流として働くととらえられる。

上記の分析をまとめると，交感発話の分類を下記図 2 のようにまとめることができる。

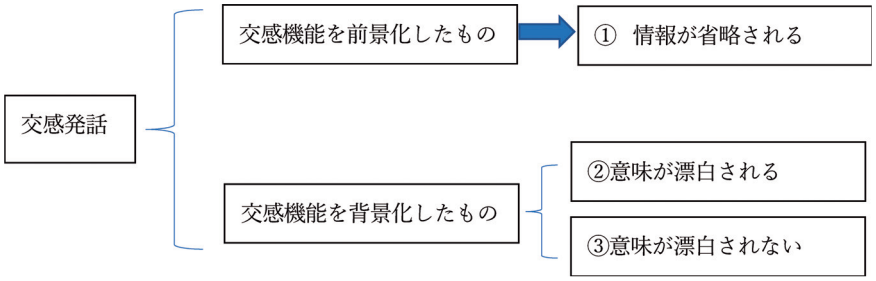

図 2　交感発話の分類

上記の分類に従い，具体的な内容を以下の①～③に整理して示すことができる。

（14）

①典型的交感発話：情報が省略され，交感的交流を焦点にしたもの。

②疑似交感発話：情報は省略されていないが，意味が漂白され，交感的交流として働くもの。

・機嫌や状態の伺い

③準交感発話：情報の意味が漂白せず，その背後に交感的力があるもの。

・天気・気候のようなさりげない話題

・相手や相手の家族に対する〈いま・ここ〉の出来事，状態に関する尋ねやポジティブ的な評価（近接化する表現）

・感謝・謝罪など人間関係の維持や構築に貢献する表現

4　初対面における会話終結部の交感発話

前述であるように，交感発話は，「情報を伝達するよりも，安定的にやりとりできる状況を作ったり保持したりすることに重点のあるものである」（加藤 2004：112）。言い換えれば，交感発話の役割は，会話を順調に開始させ，安定的に行わせ，そして円滑に終了させることである。では，初対面の人同士である場合，会話の終結部に，どのような交感発話を用い，会話を円満に終了させるのだろうか。これは，話者同士が相互の関係をどのように認識しているのかということにも関わると考えられる。この点について，次節では，日常生活における人間同士の接触

状態について考察していく。

4.1　人間同士の接触について

人間同士の接触は〈一回性接触〉と〈続行性接触〉があると考えられる。一回性接触とは，一回の交流が終了した後，今後の付き合いは期待しない，もしくは期待できないものである。続行性接触とは，一回目の交流をはじめた後，今後も引き続き付き合うことが期待できるもの，また，一回目の交流をした後，今後の付き合いは期待しないが，何らかの制度的役割の関係によって，また会える可能性があるものである。そのほか，今後の付き合いは話者同士の〈意欲〉に関わる。ここでの意欲とは，話者が相手と長時間安定した関係を構築する考えの有無を指すものである。すなわち，話者同士は，今後の付き合いを続ける意欲がある時とその意欲がない時の終結部の会話は異なると考えられるのである。特に，それぞれの場合の交感発話の使用には差異がみられる。

ここでは，今後の付き合いを続ける意欲を持つ場合の接触を〈意識的続行性接触〉として扱う。それに対して，制度的な枠内における会話参加者の役割関係が明確な場合（例えば医者と患者，店員と顧客など）は，今後の付き合いは期待しないが，再接触の可能性があると分かるため，〈無意識的続行性接触〉として扱う。また，片方にしか今後接触する意欲を持たない場合は，接触を続けられる場合と続けられない場合という二種類の結果が出ると考えられる。そのうち，接触を続けられるものは〈意識的続行性接触〉となるが，接触を続けられないものは〈続行失敗性接触〉として扱える。加えて，話者同士両方とも再開することを期待しない場合は〈一回性接触〉として扱う。上記をまとめると，話者同士の意欲のありなしによって，人間同士の接触パターンを下記のように分けることができる。

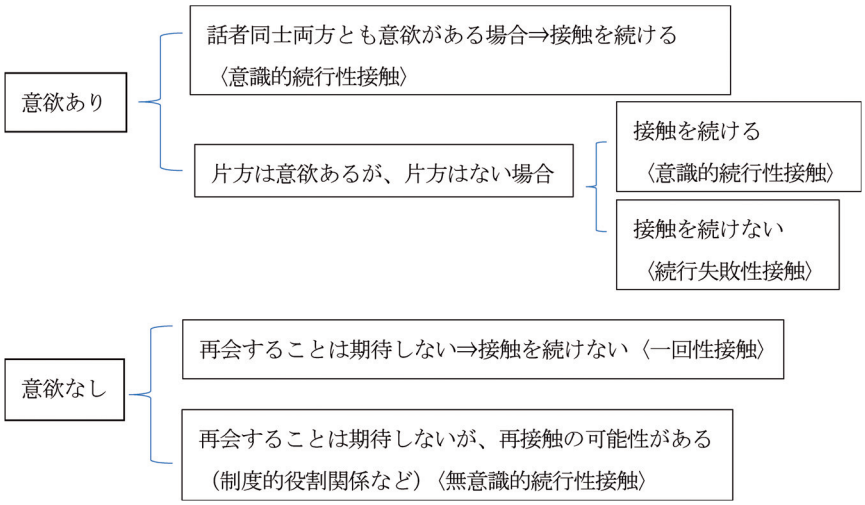

図 3　初対面に関わる人間同士の接触パターン

上記各々の接触パターンに基づいて，会話終結部の交感的交流はどのようになっているかを社会語用論的視点，関係論的ポライトネスの観点から分析を加える。

4.2　終結部の認定

会話は①「出会い」，②「話を開始する」，③「用件を伝える」，④「話を終了する」，⑤「別れる」という五つの部分に分けられると考え，終結部を④「話を終了する」，⑤「別れる」の二つの部分に当てはめて分析する。

4.3　各場面における交感発話

話者同士は，相手と今後引き続き接触する意欲があるかどうかによって，交感発話の選択も異なると考えられる。本節では，上記分析した初対面に関わる人間同士の接触パターンに基づいて，〈意欲あり〉〈意欲なし〉の順番で各場面における会話の終結部の交感発話の特徴を考察していく。

4.3.1　意識的接触の場合における交感発話

本節では，まず〈意欲あり〉の場合の会話を考察する。話者が相手と今後引き続き接触する意欲がある場合には，話者同士両方とも接触する意欲がある場合と片方にしか接触意欲がない場合がある。この二つの場面における会話終結部の交感発話について考える。下記，(15) の例が挙げられる。

(15) J が人事スタッフ，B が営業部部長，A が新入社員である。

001 J：(B に対して) 部長，今年度の入社試験で合格した A さんです。(それから，A に対して) こちらは営業部の B 部長です。

002 A：はじめまして，新人の A です。どうぞ，よろしくお願いします。

003 B：あ，よろしく。A さんのことは聞いています。頑張ってください。

004 A：はい，頑張ります。

(15) では，営業部部長 B と新入社員 A が初めて顔を合わせる場面であるが，A が実際に入社する前に，営業部部長 B がすでに A の噂話を聞いていた。A と B は会社における部下と上司の関係であるため，両方とも今後の付き合いを期待していると考えられる。「―どうぞ，よろしくお願いします。―よろしく」のように，社会地位が異なることによって，話者と聴者の会話スタイルが丁寧体と普通体というように不揃いがあるが，「よろしく」という意志表示が双方向的に用いられている。この場面において，二人とも初対面であり，相手に実際の要件で頼むことはない。しかし，会話参加者の両方とも相手の存在を認めて，今後の相互関係が安定的に

行われるように期待している。「よろしくお願いします」は，「今後いろいろとお世話になることがある」という意味合いを込めて相手に好意を示している。そのため，これは，初対面の場合において，相手と今後引き続き接触したい場合の交感発話である。そして，初対面の場面においてよく現れる儀礼的な表現であり，定まった場面で現れる表現だと認識できるため，慣習性を持っていると言える。

また，「よろしく」は「よろしくお願いします」の「お願いします」の部分を省略した後のものである。「よろしく」はあいさつとして，目上の人が目下の人に対して言うことはできるが，その逆は用いられない。しかし，「よろしく」は本来形容詞「よろしい」の連用形である。また，「よろしい」は「よい」を丁寧に言う語とされている（JapanKnowledge Lib）。こうして，「よろしく」は「よろしくお願いします」と同等の意味を持たないが，人にあいさつする時，「よろしくお願いします」の代わりに「よろしく」が用いられる。よって，ここでの「よろしく」は交感的交流を第一目的とし，交感機能を前景化し，かつ情報が省略された表現だととらえられる。

また，社会語用論（滝浦 2016：81，以下同様）という観点から見ると，（15）は，会話参加者にとって標準ないし規範の場面である。交感機能に関していえば，いわば“無標”の交感機能の表現であると言える。これは，場面や人間関係から予期される，“デフォルト（初期値）”としての期待の水準である（ibid.）。そのため，交感発話も特に意図せず典型的な表現を表出している。動機付けにおいては受動的となる。

さらに，ワッツによると，このような言語的ふるまいは「ポリティックなふるまい」であり，すなわち「社会的制約にとって適切だ，目立たないもの」と認識されるである（Watts 2003：19）。

引き続き，（15）における「頑張ってください」を見てみよう。これは，会話の終了にあたり，営業部長 B が新入社員 A に対しての励ましの言葉である。「頑張ってください」は，人に対して励ます時に用いられる言葉である。人を激励するという発話内力を持っている。すなわち，相手に働きかける力を持っているという理解もできる。このような表現は相手に働きかけることに焦点を当てて，他動的機能（conative）（Jakobson, 1960）を主として働かせている。しかも，このような働きかけは人を激励するものなので，人との付き合いにあたってはポジティブな効能を生じさせることができる。要するに，友好な人間関係を構築する上では，交感的役割も果たしている。ただし，言葉としては相手に働きかけることを前景化しているため，交感機能は抑えられて，その背後に存在するものとなった。

また，話し手 B にとって，新人 A とは初対面であるが，A が実際に入社する前に（試験や面接の段階で）既に A のことに関する話を聞いたことがあり，A に対しては噂話からの印象がある。その時点で，ある意味でこの新人に何か期待していることもあり，「頑張ってください」という発話行為をしている。これは，何かのハプニング（出来事）があるうえで，意図的な言語使用の結果である。社会語用論という観点から見る位相についていうと，交感機能的には，有

標の交感機能が表現・伝達される水準ということになる。標準や規範から見れば，そこからの動機づけられた偏移ないしずれと言うことができよう（滝浦 2016：81）。よって，動機付けにおいては能動的となる。

さらに，ワッツの関係論的アプローチからいうと，これは「期待できるレベルを超越している」言語的ふるまいであるため，「ポライトネスのポジティブ側」に向かって，ポライトと呼ぶべきである（Watts 2003：19）。

上記（15）は，話者の両方とも接触する意欲がある場合の会話例である。次は，片方しか接触する意欲がない場合の会話例を見てみよう。このような場合は，片方だけ接触する意欲があるため，人間関係を円滑に構築したり，仲良く会話を終了したりするとは限らない。交感発話がこのような場面にどのように働きかけるのかを考察する。話者両方の心境の変化をよりよくみるために，会話の開始部から終結部まですべてのデータを取り上げるとする。

（16）〈お見合いの場で〉双方の両親が子供を連れてお見合いをしている。A は女性側の父で，B はお見合いをしている女性本人である。一方，C は男性側の祖父で，D はお見合いをする男性本人である。D は今回のお見合いを期待していないため，会見に遅れている（以下，人の名前はそれぞれ＃＃，＃*，＃という記号にて表示する）。

005 A：今日は私のようなまったく子会社の業務をしている娘に，このような恩恵をいただき，誠にありがとうございます。（娘 B と一緒にお辞儀をする）
006 C：いや，突然お願いして悪かった。＃＃（男性 D の名前），早く入りなさい。
007 B：（男性 D が入った）まさかのイケメン，どうしよう。（娘が父につぶやく）
008 C：孫の＃＃で，
009 A：お，こちらが＃* か（A は名前を間違えている），＃* 様，本日は，いや，本日はよ～よろしく，お願い～いたします。
010 B：舌がもつれています（小声で父 A に言う）。
011 D：＃* じゃない，才原＃＃です。
012 A：あ，なんというご無礼を，お許しくださいませ。
013 C：まあまあ。
014 A：娘の＃です。
015 C：はじめまして，＃さん。
016 B：よろしくお願いいたします。
（男性の祖父 A は女性の父 C に対して，理想の孫のお嫁さんのことを話している。そして，女性の父 C も子供たちの幸せを期待することを表している。中略）
017 C：＃＃，黙ってるな，あいさつ。

018 D：写真と実物が全然違う。（目を別方向に向け）盛りすぎ。

019 A：ははははは（笑），今の子はカラコンしますからね。

020 D：男を引くために，厚化粧をする女は好きじゃない。

021 C：何を言っているのだ。

022 D：いくら笑ったところで，画面偏差値じゃ上がらんぞ。

023 C：＃＃！

024 D：言い換えにも庶民が選びそうなレンタル晴れ着で，旧家の御曹司が落とせると思っているか。（笑），なめられたもんだなあ。

025 C：いい加減にしなさい！

026 D：どうせ財産目当てのたかる気満々な女だろう。

027 C：なんという，失礼ね！

028 B：（女性 B が怒って，これ以上我慢できず）黙って聞いているのは，言いたいこと言ってくれんじゃないの。

029 A：＃，＃（父が娘を止めようとしている）

030 B：悪いけど，あんたのことなんて毛ほどの興味もねーから。（娘がお見合い現場から去っていった）

031 A：＃，＃。すみません。すみません。

（『高嶺と花』第 1 話，筆者による一部修正がある）

（16）は，話者の片方が接触する意欲があるが，もう一方は接触する意欲がない場合の会話である。女性側は，今回のお見合いに誘われたほうであるが，自分側の父と先方側の祖父に尊敬しているため，最初はなるべく礼儀正しく振舞うようにしている。しかも，お見合い相手男性の顔に見とれている。また，女性側の父 A の発言（005，009，012）から見ると，男性側の社会地位が女性側より高いということが分かる。しかし，会話の流れを見ると，男性は女性のことを見下していて，今回のお見合いにも誠意を持っていないとみられる。それだけではなく，お見合い相手の男性は女性のことを侮辱したり，軽視したりもしている（018，020，022，024，026）。結局，男性 D の言葉は女性 B を怒らせて，父親 A の引き留めも無視し（029），喧嘩別れの結果となっている。

（16）の全体の会話構造を見ていると，005～016 は話者 4 人が相互に紹介や自己紹介をしている部分であるため，会話の開始部と認定できる。それから，017～029 は，お見合いをしている男性と女性の間のやり取りであるが，主に男性が女性に対して悪い評価を出しているところである。029 までは中略の部分を含めて，会話の中間部分（本題の部分）と認定できるだろう。最後の 030～031 は，女性 B がお見合い現場から去っていき，父 A が代わりにお詫びをしている部分である。そのため，この部分を終結部とすることができると思われる。ここでは，主に

終結部の会話に着目して交感発話を確認していく。

（16）は話者 4 人が参加している会話であるため，やや複雑な構造になっているが，お見合いの主人公 B と D の会話から見ていくことができる。前述したように，男性 D が女性 B のことを面と向かって侮辱しているため，女性 B が激怒して言葉を返した後，お見合い現場から去っていった。030 の「悪いけど，あんたのことなんて毛ほどの興味もねーから」という言葉は，女性 B が自分のメンツ（プライド）を守るために男性 D に自分の拒絶の態度を明示したのである。これは会話開始部における「よろしくお願いいたします」（016）の部分の発言から態度が逆転して，コントラストが鮮明である。また，このうちの「悪いけど」は，本当に相手に申し訳ない気分を表すというより，自分のしつけを示すために用いられた儀礼的な言葉にすぎない。その後の 031 は，お見合い関係が破綻したとみられた父 A が男性側との人間関係を修復するために娘の代わりに「すみません」と謝っている。

一方，父 A は最初からずっと慎んでいる態度で男性側とやり取りをしている。特に，会話開始部にあたる自己紹介の部分では，自分の身分が相手より低いことと分かりつつ，謙虚で応対している姿がみられる（005，009）。また，男性 D が自分の娘を批判している時でも，会話の雰囲気を和らげるために自嘲の笑いをし，向こうからの批判を認めようとしている（019）。しかし，男性 D が引き続き無礼な発言をし，その後の事態が父 A にはコントロールできなくなっている。

このような不愉快なやり取りの中，主人公である女性 B と男性 D の間の会話も通常通りに仲良く終結したのではない。通常の会話終結部では，会話を終了させる前に，「それでは」のように会話を終了するメッセージを出したり，「またね」などのように相手と別れて，今後の再会を期待したりしている言葉がみられる。しかし，女性 B の場合は，再会を期待するような交感発話がみられていない。これによって，人間関係が破綻したととらえる。これは，意識的接触が失敗した例である。

次に，片方が積極的に相手に近づけることによって，双方とも最終的に引き続き接触することを期待するような会話例を考察する。

（17）学会が終了し，夜の懇親会で参加者 A と参加者 B が話をして会話を終了しようとする時点である。

032 A：私も本日京都大学の院生が発表した内容に興味を持ちました。

033 B：あ，そうですか。分析も深かったし，結論もおもしろかったですね。

……あ，すみません，ちょっと帰りの時間になりまして，そろそろ…

034 A：はいはい。

035 B：また SNS で連絡をしますね。

036 A：分かりました。北海道に来たらぜひ連絡をしてください。案内をしますよ（笑）。

037 B：あーはい（笑），どうも。それでは，また。
038 A：それでは，また。気を付けて帰ってください。

（17）は，同い年の二人が学会の懇親会で雑談をして，会話を終了する際の交感発話の使用例である。「―それでは，また。―またね」（037，038）は形式化した別れる時のあいさつ言葉である。交感的力が明示的に表されているため，典型的交感発話として扱って無難である。

そして，「北海道に来たらぜひ連絡をしてください。案内をします」（036）という部分の会話がある。これは，相手に積極的に好意を示し，今後の友好関係を構築する意欲がみられる言語的ふるまいである。このような表現では，情報を伝達している機能が明示しているほかに，交感機能がその背後にひそんでいる。そのため，準交感発話として扱うことができる。言語形式上は定型性がないが，相手と近接化するような共感性がみられる。これは，標準ないし規範の場面からはずれた偏移ないしずれの位相であり，能動的な動機づけととらえられる。また，（15）の「頑張ってください」と同様に，ワッツのポライトな言語的ふるまいに当てはまる。

そのほか，038 の「気を付けて帰ってください」の例も，相手に対して関心を示している。これは，交感機能が後景している準交感発話として扱うこともできるが，会話の終結部にあたる疑似交感発話となることもみられる。言い換えると，意味がある程度漂白して，交感的機能を主要な機能として働かせることが多いとみられる。

4.3.2　無意識的接触の場合における交感発話

次に，無意識的な接触の場合の会話例を確認する。無意識的接触の場合は再会することはない場合の〈一回性接触〉と再会することは期待しないが，再接触可能性がある場合の〈無意識的続行性接触〉がある。このような場面は，会話参加者の役割関係が明確な場合によくみられる。次の会話例を挙げて考察する。

（18）〈販売店で〉K が顧客，H が販売員である。
039 K：アリペイでお願いします。
040 H：はい。（スキャン作業）（レシートを渡しながら）レシートです。
041 K：ありがとうございます。
042 H：ありがとうございました。

（18）は，お店でお買い物をする時によくあるシーンである。買い物が終わって，顧客 K も販売員 H もお互いに感謝をしてから会話を終了する。これはもともと，感謝という発話内行為の目的を持ち，相手に働きかける力を持つ表現である。相手に謝意を表すことによって，人間関係の構築に貢献しているため，交感的力を持つととらえられる。要するに，言葉の明示的意味

と暗示的意味の両方の機能がある。これは，他動的機能が前景化して，交感的機能を背景化した表現だというふうに解釈できる。よって，準交感発話として扱うことができる。しかしながら，この会話場面は販売行為を終了しようとする場面で，顧客と店員の相互の感謝は謝意を表す目的を持つというより，会話を終了するメッセージ性がより顕著である。すなわち，このような役割分担の下で，儀礼的に会話を終結するメッセージだととらえることもできる。よって，これは標準ないし規範の場面において，準交感発話が転用された終結性を持つ言葉というふうに解釈を加えたい。

また，ここでは，H は最後にタ形を用いている。お買い物をするという出来事が終了したため，「ありがとうございます」のではなく，「ありがとうございました」を用いて会話を終了している。これは，タ形によって，会話を終了させることを明示しているととらえる。よって，タ形はある意味で，終結性を持っていることが分かる（タの使用について，別途詳しく論じることとする）。引き続き，下記（19）の例を挙げる。

（19）（医療機関で）K が患者，G が看護師である。G は患者の薬を用意し，薬の用法を説明している。

043 K：はい。（お会計を終わってから）ありがとうございました。

044 G：お大事にしてください。

（19）は，医療機関で受診をした後に，よくみられる会話場面である。医療機関で受診をしたあと，看護師や先生がよく患者に対して「お大事に」「お大事にどうぞ」「お大事にしてください」という表現を選択する。これは本来「ご体調が早く回復できるように，よく休んでください」「大切に扱ってください」という願望を表明する表現である。また，相手に関して関心を示しているため，交感的力を持っている。これは，本来前景化した他動的機能と背景化した交感的機能が混在している準交感発話であったが，現在は医療現場における医者と患者の儀礼的な業務終了後のセリフとなった。要するに，「お大事にしてください」はこの場面における慣習的な用語である。よって，準交感発話から意味が漂白した疑似交感発話に転換したともいえる。

これまでの分析でみたように，「ありがとうございます」「お大事にしてください」の二つの会話場面は，準交感発話を転用して会話を終結しているのが分かる。これは標準ないし規範に対する意識の変化が関係しており，受動的～能動的の中間にある変化の位相だととらえられる。

（20）（お電話で）C が通信販売員，K が顧客である。

045 C：こどもちゃれんじの教材の活用方法についてアンケート調査を行いたいんですが，お客様，今お時間よろしいでしょうか。

046 K：あ，ちょっと授業中なので，対応が難しいですね。

047 G：かしこまりました。また次回ご連絡させていただきます。
048 K：はい，すみません。それでは，失礼します。
049 G：いいえ，とんでもないです。失礼いたします。

電話での会話の終了時に，話者も聴者も「失礼します」と発話して会話を終了することがよくみられる。ここでの「失礼します」はこれからお電話を切る前の断りである。お電話は対面会話と異なり，いつ話が終了すべきか，いつお電話を切ることができるかはすべて会話参加者の音声で判断しなければならない。その際，「失礼します」は「お話が終了した，これで電話通信を切るが，よろしいか」というメッセージを相手に発信しているのである。聴者からも同じ言葉「失礼します」と返事してくれると，それはお電話を切っても大丈夫だというコミュニケーションのチャンネルを閉鎖する承諾を得たともいえるだろう。このように，「失礼します」は会話を終結するにあたって，相手に対して儀礼的な断りを示したものである。

他方，「失礼します」の場合は，「それでは，また」と同じように，交感機能を前景化した標準ないし規範的な場面における言語使用であり，交感機能に関していえば，いわば“無標”の交感機能の表現であると言える。場面や人間関係からみてデフォルトの水準なので，特に意図せず典型的な交感発話を表出しているのである。そのため，動機付けにおいては受動的となる。

5　まとめと今後の課題

本稿では，前景と背景の概念を用いて，交感発話を分析した。そして，交感機能を前景化した時と背景化した時の表現を会話例を用いて考察した。また，〈意識的続行性接触〉・〈無意識的接触性接触〉・〈続行失敗性接触〉・〈一回性接触〉という人間の接触パターンを分類したうえで，初対面の会話終結部にも異なるレベルの交感発話が存在することが明らかになった。

会話の終結部には，「それでは，また」「よろしくお願いします」「失礼します」という交感機能を前景化した典型的交感発話があるほかに，「頑張ってください」のような激励を表す交感機能を背景化した準交感発話もあれば，「ありがとうございます」「お大事に」というような準交感発話が転用され会話を終結させるためのメッセージに用いるものもある。このようなものは意味が漂白し，交感発話として働かせる疑似交感発話に変化したととらえることができる。以上より，終結部の交感発話は，会話を円満に終了し，今後の交友関係や次回会う際の会話が順調に行われるための土台作りというメタレベルの機能を持つことが明らかになった。その一方，喧嘩別れで続行性接触が失敗となった場合，話者の不満によって会話の終結部は円満に終了せず，今後の関係を構築しないような場合の発話もみられた。最後に，会話終結部の交感発話の特徴を次の表 2 にまとめることができる。

表 2　初対面時の会話終結部の交感発話の特徴

交感発話	性質	位相	動機づけ	ポライトネス
典型的交感発話	情報が省略し，交感機能が前景とする	標準ないし規範	受動的	ポリティック
準交感発話	他動的機能が前景し，交感機能が背景とする	偏移ないしずれ	能動的	ポライト
	転用	変化	中間的	ポリティック
疑似交感発話	情報の意味が漂白し，交感機能が前景とする	偏移ないしずれ	能動的	ポライト

本稿では，初対面時の会話終結部における交感発話を分析するにあたり，ごく一部の現象を扱ったに過ぎない。今回の会話データを考察して得た結果（交感発話の種類，あるタイプとほかのタイプとの違い，あるいは共通性というもの）の広がりは，データを増やすにつれて，さらにさまざまな観点が出てくる可能性がある。今後の研究の方針として，会話の構造と場面をさらに綿密に考察し，部分終了と全体終了の部分も加えて分析を深めたいと考えている。

（しょう　けつ・言語科学研究室）

参考文献

Du Bois. J.W（2014）Towards a dialogic syntax. *Cognitive Linguistics* 25(3). 359-410. De Gruyter Mouton.

加藤重広（2004）『日本語語用論のしくみ』研究社.

Malinowski. B（1923）Phatic Communion, *Communication in Face to Face Interaction*, *Selected Readings*. Edited by John Laver and Sandy Hutcheson, 1972, 146-152, Great Britain: Penguin Books.

Searle, John. R（1969）*Speech Acts*, Cambridge: Cambridge University Press（邦訳：坂本百大・土屋俊訳（1986）『言語行為』勁草書房）.

Schegloff, Emanuel A. and Harvey Sacks.（1973）Opening up Closings, *Semiotica* 8: 289-327.

肖　　潔（2019）「あいさつとあいさつ表現の判断基準及び分類に関する考察 ── 日本語の視点をもとに ──」,『研究論集』19，233-243，北海道大学大学院文学院.

肖　　潔（2021）「現代日本語における初対面時の交感発話の特徴 ── 会話の開始部を中心に ──」,『国語国文研究』157，57-72，北海道大学国語国文学会.

ジョナサン・カルペーパー/マイケル・ホー（2020）「第 3 章　情報語用論」,『新しい語用論の世界 ── 英語からのアプローチ』，57-101，加藤重広訳，椎名美智監訳，研究社.

滝浦真人（2016）「社会語用論」，加藤重広・滝浦真人（編）『語用論研究法ガイドブック』，77-103，ひつじ書房.

Watts, Richard J（2003）*Politeness*, Cambridge: Cambridge University Press.

山田富秋（1999）「会話分析を始めよう」好井裕明・山田富秋・西坂仰編，1-35，世界思想社.

Jakobson, R（1960）“Linguistics and Poetics”. In: Thomas A. Sebeok（ed.）Style in Language, 350-377, John Wiley and Sons, New York.

用例出典

Japan Knowledge Lib
https://japanknowledge-com.ezoris.lib.hokudai.ac.jp/lib/display/?lid=2001019077600.（2021 年 8 月 30 日閲覧）
ドラマ『高嶺と花』，フジテレビ，2018 年。